

① 月2万～3万円の「小遣い稼ぎ」を目指す

② 初期投資は最小限に。固定費をかけない

③ ネットやSNSを活用する

④ 地域住民とのつきあいを大事にする

⑤ 自分で考え、自ら積極的に動く姿勢を持つ

サラリーマン根性を捨てれば 新しい働き方が見えてくる

に設置されています。地域の一般家庭や事業所、官公庁から臨時的かつ短期的な仕事を請け負い、その仕事を希望する会員に提供するしくみになっています。

ただし、会員に公平な就業機会を提供するという観点から、シルバー人材センターでは通常、ローテーションにより就業します。「今月は時間が空いているから仕事をたくさん入れたい」と思っても、必ずしも希望が通るとは限りません。

フリーランスで働くことも視野に入れてみよう

こうして見てみると、定年後の働き方の選択肢は非常に限られてるように思えます。しかし、発想を転換すれば、**定年後こそ、自分の思いどおりに働ける時期なのです。**

サラリーマンの場合、現役時代は勤めている会社の仕事をするほかありませんが、定年後はさまざまな分野の仕事を自分の

意思で自由に選ぶことができます。子どもが独立を迎える年代なので、教育費や生活費の負担も減ります。年齢的にまだまだ気力や体力もありますから、思い切って新しいことに挑戦することもできます。いずれ年金の支給が始まるので、現役時代のようにバリバリ働いて稼ぐ必要性も薄くなります。

定年後の人生最大の魅力である自由と時間的な余裕を生かした働き方は、「会社に雇われて安定した職場と給与を確保できれば安心」というサラリーマン根性を捨てて、フリーランスで働くことです。

フリーランスとは、個人で独立して仕事を請け負う働き方のこと。専門的な資格をもつ人が独立・開業して働くケースだけでなく、インターネットで手づくり品を販売したり、頼みごとを引き受けて報酬をもらったりすることも含まれます。誰でもフリーになれますから、大げさ

に考えなくても大丈夫です。とはいえ、ずっと組織に属して働いてきた人が定年後にいきなりフリーで働くには、意識改革が必要です(図表4)。

まず、最初から高い目標を掲げず、決して無理をしないこと。まずは月2万～3万円の「小遣い稼ぎ」を目指しましょう。

ITの活用は、どんな人にも必須です。自己PRや情報発信、仕事の受発注、人脈づくりやビジネスのアイデア収集など、インターネットやSNSを通じてできることはたくさんあります。また、ぜひ力を入れたいのが、地域社会とのつながりを深めることです。特にリタイア男性は、自分が住む地域のこと、疎い人が大半なので、**自治会や町内会の行事に顔を出したり、マンション管理組合の運営に参加する**など、地域の人々との交流や仲間づくりから始めてみましょう。定年後は、昔の職場仲間とのつきあいは急速に薄れていきます。